

2019年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏 名
人間健康学部 人間健康学科	准教授	尚 爾華
最終学歴	学 位	専門分野
札幌医科大学大学院医学研究科博士課程修了	博士 (医学)	公衆衛生学、予防医学

I 教育活動

○目標・計画

(目標)

乳幼児・児童生徒から高齢者までの健康に関する基本的な知識を十分身につけることを目標とする。

(計画)

教育にあたっては、建学の精神「真に信頼して事を任せうる人格の育成」に基づいた教職員の心構えを基本として、学生のモチベーションを維持しつつ、効果的な指導を心がける。オリジナル講義科目の教材を開発する。

○担当科目（前期・後期）

(前期)

食と健康、健康管理論、わたしたちの身体、総合演習Ⅰ、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅲ、卒業研究

(後期)

小児保健論、学校保健、衛生学、総合演習Ⅱ、専門演習Ⅱ、専門演習Ⅳ

○教育方法の実践

体験的な学習・教育の実践に継続して取り組んだ。総合演習では、食と健康の知識を深めるため、外部講師と連携し、「大学生の食育と健康～お弁当の詰め方」をテーマに体験的学習を実施した。専門演習では、海外より専門家を招き、特別講座「少子高齢社会の健康と福祉」を実施した。日本と中国の現状と課題について学生がグローバルの視点から盛んにディスカッションを行った。

○作成した教科書・教材

講義科目のスライドを Web 上で公開した。Web 科目フォルダを設置し、学期の初めに全講義科目のスライドを公開している。学生自身が事前事後に閲覧やダウンロードすることができ、授業外での学習を促進させた。

○自己評価

演習科目においては、学生に明確な授業計画を示し、更に実践・実習も取り入れることに心掛けるゼミ運営ができた。講義科目では、スライドの見せ方、記述式のプリントで学生の理解度を深めるように工夫し、大人数の授業においては特に受講ルールを徹底した。その他に、引き続き「健康管理能力試験 1 級・健康管理士一般指導員」取得希望する学生には履修指導・受験対策をサポートした。学力の差があるすべての受講生の満足度を上げる努力を続けた。

II 研究活動

○研究課題

- ①少子高齢化社会における乳幼児・児童生徒の保健に関する国際比較
- ②域在住高齢者を対象とした健康増進に関する調査研究

○目標・計画

(目標)

- ①日本と中国における少子化対策や乳幼児、児童生徒の健康問題について、文献研究や実地調査を続ける。その成果を学会にて発表し、著書や論文にまとめる。
- ②名古屋市にある複数の福社会館において、健康体操教室に参加する高齢者の健康状況に関する調査を継続していく。その成果を学会にて発表し、著書や論文にまとめる。

(計画)

- ①名古屋市、上海市（中国）における乳幼児、児童生徒の健康問題について文献研究及び現地調査を行い、世界保健機関や厚生労働省から発表された最新データなどを参照し、国際比較を行う。セミナーを主催し、その成果を国内外の研究者と共有する。
- ②名古屋市内の健康体操教室に参加する高齢者の調査結果を解析し、中高年女性の健康に影響する因子に関する研究を継続して行う。その成果を著書と論文にまとめる。

○2012年4月から2020年3月の研究業績（特許等を含む）

(著書)

- ・尚爾華、加藤利枝子、中川弘子、渡邊美貴、鈴木貞夫、中山佳美、森満、馬利中、中野匡隆、丸岡利則. 地域創造研究所叢書 No32『高齢社会の健康と福祉のエッセンス』唯学書房、2019年11月
- ・尚爾華、澤田節子、谷村祐子、肥田幸子、中野匡隆、木野村嘉則. 地域創造研究所叢書 No27『長寿社会を健康に生きる—地域の健康づくりをめざして—』唯学書房、2017年3月

(学術論文)

- ・尚爾華、野口泰司、中山佳美. 地域在住女性高齢者における現在歯数20本未満の関連要因～名古屋市体操教室参加者における調査～. 口腔衛生学会雑誌第70巻第1号. 2020年1月. 27-33頁
- ・尚爾華、平井一正. 中国の大学生における理想体型・生活習慣および健康状況の自己評価についての調査. 名古屋産業大学論集第34巻. 2019年11月. 17-22頁
- ・尚爾華、加藤利枝子、中川弘子、渡邊美貴、鈴木貞夫. 女性高齢者の年齢階級別にみた健康状況と生活習慣に関する調査. 東海公衆衛生雑誌第7巻第1号. 2019年7月. 114-119頁
- ・尚爾華、郭芳、楊叶、顧軍、姜丽英、中山佳美. 上海市小学生におけるシーラント処置状況に関する調査～一次予防の実施状況と児童の口腔衛生環境について～. 東邦学誌第48巻第1号. 2019年6月. 59-63頁
- ・尚爾華、徐静、王慧華、徐秀婷、王 亜婷、中山佳美. 上海小学生における未処置歯の有病状況と治療状況に関する調査～二次予防の実施状況と児童の口腔衛生環境について～. 東邦学誌第48巻第1号, 2019年6月. 65-70頁
- ・尚爾華、王亜婷、馬利中. 「中国上海にある医療機関従事者における出産・子育てに関する意識調査～「二人っ子政策」開始2年間の現状をふまえて～」『東邦学誌』第47巻第1号, 2018年6月、91～98頁
- ・尚爾華. 「大学生の食生活実態と食育の課題～朝食の欠食頻度に焦点を当てて～」『東邦学誌』第46巻第2号、2017年12月、151～153頁
- ・澤田節子、肥田幸子、尚爾華、中野匡隆「地域在住高齢者の健康維持活動支援に関する調査」『東邦学誌』第44巻第2号, 2015年12月、117～139頁
- ・Masakazu Washio, Kazuyuki Takeida, Yumiko Arai, Erhua Shang, Asae Oura, Mitsuru Mori. Depression among Family Caregivers of the Frail Elderly with Visiting Nursing Services in the Northernmost City of Japan. International Medical Journal Vol.22, No.4, 2015

(学会発表)

- ・尚爾華. 中国「二人っ子政策」による少子化対策の効果に関する一考察—上海市医療職女性における出産・子育てに関する意識調査(第2回)の結果から. 第84回日本健康学会総会. 2019年11月
- ・尚爾華、野口泰司、中山佳美、森満、中川弘子、渡邊美貴、依馬加苗、鈴木貞夫. 2018年中国上海市小学生未処置歯の保有と治療状況～学校健診結果と日本の比較～第78回日本公衆衛生学会総会. 2019年10月
- ・依馬加苗、中川弘子、渡邊美貴、細野晃弘、柴田清、近藤文、若林諒三、市川麻理、野口泰司、上島寛之、尚爾華、永谷憲司、鈴木貞夫. 一般住民における職種と主観的ストレスとの関連: J-MICC Study 岡崎. 第78回日本公衆衛生学会総会. 2019年10月
- ・尚爾華. 中国北京市大学生における健康状況の自己評価と生活習慣・ストレスとの関連. 日本ヒューマンヘルスケア学会第3回学術総会. 2019年9月
- ・尚爾華、上田裕司. 中国都市部大学生の身長、体重、体格指数および理想体型に関する調査. 第62回東海学校保健学会学術集会. 2019年9月
- ・Erhua Shang. The integrative analysis of Chinese college students' lifestyles and health. 第62回東海学校保健学会学術集会. 2019年9月
- ・上田裕司、尚爾華. 薬物乱用防止教育に対する中学校教員の意識と関連要因—質問紙調査の分析結果から—. 第62回東海学校保健学会学術集会. 2019年9月
- ・尚爾華、野口泰司、中山佳美、森満、中川弘子、西山毅、渡邊美貴、小嶋雅代、今枝奈保美、神谷真有美、依馬加苗、加藤利枝子、鈴木貞夫. 地域在住女性高齢者における現在歯数の関連要因. 第65回東海公衆衛生学会学術総会. 2019年7月
- ・野口泰司、中川弘子、西山毅、渡邊美貴、細野晃弘、柴田清、神谷真有美、尚爾華、市川麻理、若林諒三、上島寛之、永谷憲司、依馬加苗、山田珠樹、鈴木貞夫. 高齢者の就労および働きが健康感に及ぼす影響: 5年間の縦断研究. 高齢者の就労および働きが健康感に及ぼす影響: 5年間の縦断研究.
- ・尚爾華、加藤利枝子、中川弘子、鈴木貞夫. 女性高齢者における年齢階級別健康状況・生活習慣および主観的な健康度に関する調査～名古屋市内にある体操教室の女性参加者を対象に～. 浜松. 2018年7月
- ・上島寛之、小嶋雅代、細野晃弘、荒井健介、辻村尚子、岡京子、藤田ひとみ、岡本尚子、神谷真有美、近藤文、片桐辰徳、若林諒三、望月美咲、尚爾華、鈴木貞夫. 地域住民における食塩摂取量評価法の比較と活用法の検討. 第74回日本公衆衛生学会総会. 2015年11月
- ・望月美咲、小嶋雅代、細野晃弘、荒井健介、辻村尚子、岡京子、藤田ひとみ、岡本尚子、神谷真有美、近藤文、片桐辰徳、若林諒三、上島寛之、尚爾華、鈴木貞夫. 起床後第2尿を用いた地域住民の食塩摂取状況の把握. 第74回日本公衆衛生学会総会. 2015年11月

(特許)

(その他)

<セミナー・研究会発表>

- ・尚爾華. 日本と中国における認知症に関する地域活動の事例報告～名古屋市と上海市の実地調査から～名古屋市立大学医学部公衆衛生セミナー. 2019年7月
- ・尚爾華. 日本における小児保健分野の取り組み～健やか親子21(第2次)について～. 少子高齢社会の健康と福祉セミナーin上海. 2019年2月

- ・ 尚爾華. 日本における少子高齢化に関する政策について. 上海市浦東区浦南病院学術交流会 (中国上海市). 2018 年 3 月
- ・ 尚爾華. 中国の公衆衛生現状と課題～最近 10 年の高齢者及び乳幼児の健康と福祉に焦点を当てて～. 名古屋市立大学医学部公衆衛生セミナー. 2017 年 12 月

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

- ・平成 31 年度(継続)地域創造研究所研究補助金少子高齢化社会の健康と福祉研究会代表者－採択
- ・平成 30 年度(新規)地域創造研究所研究補助金少子高齢化社会の健康と福祉研究会代表者－採択
- ・平成 29 年度(継続)地域創造研究所研究補助金地域の健康づくり研究会 代表者－採択
- ・平成 28 年度(新規)地域創造研究所研究補助金地域の健康づくり研究会 代表者－採択

○所属学会

日本公衆衛生学会、日本ヒューマンヘルスケア学会、日本学校保健学会、日本疫学会、日本国際保健医療学会、東海公衆衛生学会、東海学校保健学会、

○自己評価

研究活動において、最近の数年に並行して取り組んでいた 5 つの調査研究プロジェクトを順次完結させた。それらのデータをまとめ、本年度は著書 1 部（共著）、学術雑誌論文 5 本（筆頭）、学会発表 6 本（筆頭）、その他の共同発表を行い、多数の研究成果を発信することができたので、大いに評価したい。また、地域創造研究所補助金による少子高齢社会の健康と福祉研究会活動を継続して運営し、本学教員・学生と共に海外研究者の学術交流を続けた。

III 大学運営

○目標・計画

（目標）

入試委員会委員、地域創造研究所運営委員として貢献する。人間健康学部 FD ワーキングメンバーとして貢献する。

（計画）

入試委員会、地域創造研究所の運営で参画し、役割を果たす。FD ワーキングのメンバーとして、授業改善などに取り組む。

○学内委員等

入試委員会委員、地域創造研究所運営委員会委員

○自己評価

入試委員会では入試改革に積極的に参画し、すべての入試日程において委員としての役割を果たした。また、地域創造研究所運営委員会委員として、学内外の研究者に声を掛け新規入会を勧めたり、叢書 No32 の責任者を務めたりして成果を上げた。地域創造研究所主催シンポジウムの運営スタッフとして貢献した。

IV 社会貢献

○目標・計画

（目標）

- ①地域在住の高齢者と健康づくりサポート活動を通じての交流を積極的に行う。
- ②名古屋市国際交流センターの依頼による国際交流活動を続ける。

(計画)

- ①名古屋市健康体操教室の主催者の協力者になり、地域住民と交流を深める。
- ②名古屋市国際交流センターの依頼により、愛知県内市民団体や小中高生を対象に、世界の国々の健康問題や多文化共生について国際交流活動を続ける。

○学会活動等

第 77 回東海公衆衛生学会運営スタッフとして貢献した。
学術専門雑誌の査読委員として原著論文の査読を引き受けた。

○地域連携・社会貢献等

北海道発祥の高齢者向け「ふまねっと」運動の普及活動を継続した。本年度 10 月に本学を会場として、地域創造研究所「少子高齢社会の健康と福祉研究部会」と NPO ふまねっとが共同開催で「ふまねっと講習会・フォローアップ研修会」を実施し、地域住民の健康づくりに貢献した。

○自己評価

愛知県・岐阜県から多数の地域在住高齢者が参加される講習会・研修会を企画・実施し、地域の健康づくりに貢献した。社会貢献とする名古屋市国際交流センターの依頼による講演活動は長年続けましたが、本年度は研究活動に重点を置いたため、引き受けることができなかったが、次年度はこちらの活動も行っていきたい。

V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

海外から来日した医療技術研修チームの依頼により短期の現地サポートを行った。

VI 総括

研究活動において、近年の調査研究結果をまとめ、計画した論文の執筆及び学会発表を実現できたことを大いに評価したい。また、地域創造研究所研究部会を継続して運営し、海外研究者との学術交流を続けた。教育活動においては、実習・フィールドワークを取り入れる演習運営は学生に歓迎され、今後も継続したい。大人数の授業においては受講ルールの徹底、評価基準の明確化に力を入れることで、教育効果が見られた。学務運営面では入試委員会において委員としての役割を果たした。地域創造研究所運営委員会委員としては学内外の研究者複数名の新規入会を果たし、叢書 No32 を予定通りに刊行することに貢献した。社会貢献としては、名古屋在住高齢者を対象とする講習会・研修会を本学の会場で企画・実施した。本年度は研究活動に重点を置いたため、社会貢献とする名古屋市国際交流センターの依頼による講演活動を中断したが、次年度はこちらの活動も行っていきたい。

以 上